

北陸電力株式会社志賀原子力発電所の  
敷地内破碎帯の評価について

平成28年4月27日

原子力規制委員会  
志賀原子力発電所敷地内破碎帯の  
調査に関する有識者会合

A・B トレンチの既往スケッチ・写真及び岩盤調査坑で確認された運動方向の情報から、S-1 は、後期更新世以降に、北東側隆起の逆断層活動により変位したと解釈するのが合理的と判断する。一方、駐車場南東方トレンチを含めて、それより南東部については後期更新世以降の活動はないと判断する。

<S-2・S-6 について>

S-2・S-6 についての検討（IV・2 章）から、S-2・S-6 は、後期更新世以降に、左横ずれ成分を持つ西側隆起の逆断層として活動した可能性がある。この際、S-2・S-6 の地下延長部の断層が活動し、地表付近に変形を及ぼしたものと判断する。

なお、今回の評価は S-1 及び S-2・S-6 を対象としたものであり、敷地内の他の“シーム”の活動性については、評価対象としていない。

今回の評価は、限られた資料やデータに基づいて行われており、より正確・確実な評価にするためには、以下に示すデータ等の拡充が必要と考える。

- ① 1号原子炉建屋等建設時等における、S-1 とその周囲の形状を示す未提示の写真やスケッチの提示。
- ② S-1、S-2・S-6 等の断層破碎帯やその母岩の鉱物学的・地球化学的分析。
- ③ S-1、S-2・S-6 及びこれらの周囲に存在するせん断面について、これらを横断する鉱物脈の有無（ある場合はその構成鉱物）、条線を含む構造同士の切断関係に関する検討。
- ④ S-1、S-2・S-6 の連続性（深部方向、走向延長方向）及び活動性に関する地質調査。
- ⑤ 敷地周辺に分布する断層の調査（平面方向及び地下方向）と、その広域的枠組みの中での敷地の地形・地質構造に関する検討。
- ⑥ 完新世段丘の形成要因や高度分布に関する調査・検討。完新世段丘の存在と高度分布から海底に推定される断層と、既知の敷地内及び周辺に分布する断層との連続性、活動時期・履歴に関する調査。